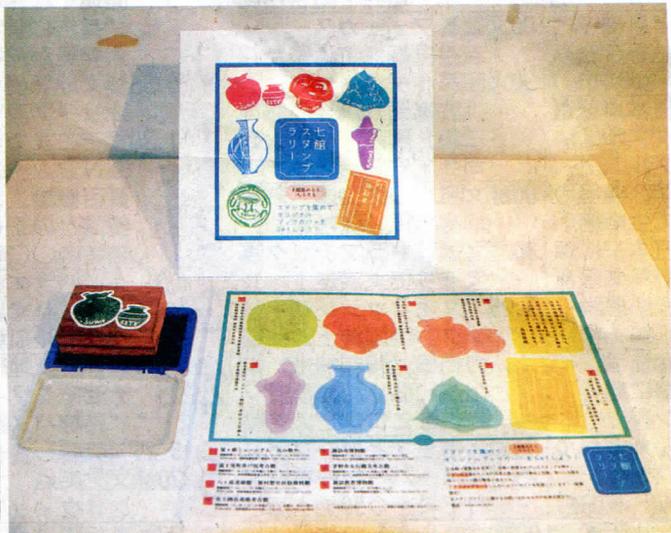


「諏訪史第一巻」刊行から100年 一大事業振り返る

諏訪地方の考古館・博物館7施設で1日から、諏訪地域の歴史をまとめた「諏訪史第一巻」刊行100年の記念展が始まった。6市町村と諏訪教育会の連携企画で、テーマを分担して各館が「諏訪史第一巻」の内容に関わりのある所蔵品を展示。遺跡や遺物に対する発刊当時と現代の時代観の違いなどを解説しながら、100年前に諏訪の教育界が取り組んだ一大事業を振り返る。3月30日まで。(山本雄太)



「古墳時代観」をテーマに「諏訪史第一巻」掲載の古墳や遺跡の出土品などが並ぶ諏訪市博物館の展示



▲諏訪市博物館に置かれているスタンプラリー用の台紙とスタンプ

「七館スタンプラリー」も

諏訪の考古史をまとめた「諏訪史第一巻」は、信濃教育会諏訪部会(現諏訪教育会)が1924(大正13)年12月25日に発行した。18(同7)年から編纂事業が始まり、教員や考古学愛好家らが遺跡、資料所有者への調査を実施。その調査を踏まえ、編纂者として招いた当時日本を代表する人類学・考古学者だった鳥居龍藏(1870~1953年)が執筆した。展示を行うのは、星ヶ塔ミュージアム矢の根や(下諏訪町)、井戸尻考古館(富士見町)、八ヶ岳美術館原村歴史民俗資

諏訪の考古史をまとめた「諏訪史第一巻」は、信濃教育会諏訪部会(現諏訪教育会)が1924(大正13)年12月25日に発行した。18(同7)年から編纂事業が始まり、教員や考古学愛好家らが遺跡、資料所有者への調査を実施。その調査を踏まえ、編纂者として招いた当時日本を代表する人類学・考古学者だった鳥居龍藏(1870~1953年)が執筆した。展示を行うのは、星ヶ塔ミュージアム矢の根や(下諏訪町)、井戸尻考古館(富士見町)、八ヶ岳美術館原村歴史民俗資

このうち、諏訪市博物館は「古墳時代観」がテーマ。第一巻に掲載された市内の古墳や遺跡から出土した土器、馬具、鉄鏃(矢じり)など約300点を並べた。また、当時の古墳や出土品を写した貴重なガラス乾板写真もある。展示に向け、一般の協力者が2千枚以上のガラス乾板を調べてデータ化し、所蔵品の原物と照らし合わせながら掲載されているものか確かめた。

同館学芸員の児玉利一さんは「各館の展示を見てもらえば諏訪史刊行という偉業が分かると思う。皆さんが地域の歴史に目を向けるきっかけになれば」と話している。

期間中、各会場にスタンプ台を設置し、「七館スタンプラリー」を実施。4カ所以上巡った人には井戸尻考古館の窓口にオリジナルブックカバーを贈る。また、7カ所全て訪れた人に数量限定のプレゼントも用意した。このほか、各館独自のイベントも行われる。詳しくは各館のホームページへ。

6市町村
7施設で記念展が開幕